

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	熊本
-------	----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	熊本県人吉市立人吉東小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	3	3	3	0	19	25
児童数	113	119	114	119	109	98	0	672	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、自ら考え、生きる力を育てる指導法の研究 ~ 個に応じたきめ細やかな指導と評価の工夫改善 ~ (国語と算数の授業実践を通して)
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

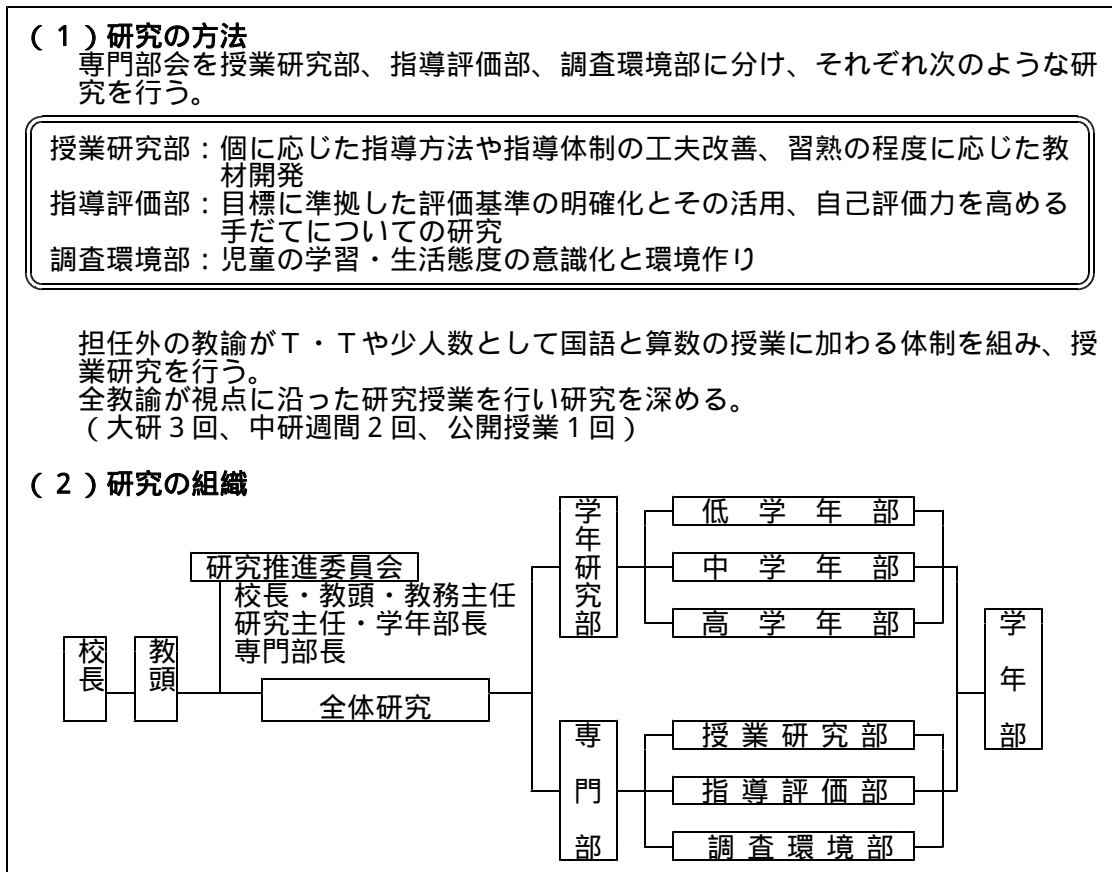
<p><b>※実施学年 全学年</b>                  (全学年とも多人数学級により、T・Tあるいは少人数指導などの個に応じた指導の工夫が必要なため)</p> <p><b>※実施教科 国語と算数</b>                  (児童の実態を考慮し、児童の基礎学力の向上を図るため、理解度に差が出やすい教科を中心に研究を進めることにした。)</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>○ <b>テーマ</b> 自ら学び、自ら考え、生きる力を育てる指導法の研究                  ~ 個に応じたきめ細やかな指導と評価の工夫改善 ~                  (国語と算数の授業実践を通して)</p> <p>○ <b>研究の見通し(仮説)</b>                  仮説1: 基礎基本の確実な定着を図るために指導体制や指導方法を工夫していけば、児童の実態に応じた多様な指導ができ、児童に確かな学力をつけることができるだろう。                  仮説2: 1時間の評価基準を明らかにして指導に生かしたり、児童の自己評価力を高めたりすることができれば、児童に確かな学力をつけることができるだろう。                  仮説3: 学んだ学習を定着させたり、生かしたりするための学びを支える環境を工夫するならば、学習意欲を高め、児童に確かな学力をつけることができるであろう。</p> <p>○ <b>研究の内容・方法</b>                  (1) 研究の視点                  視点A 個に応じた指導体制・指導方法の工夫改善                  ・指導体制、指導方法のあり方                  ・効果的なT・Tや少人数での授業実践                  ・習熟の状況に応じた授業展開                  (補充・発展別の授業展開、教材の開発)                  視点B 指導に生きる評価の実践                  ・評価基準の明確化                  ・学習意欲を高める学習カードの活用                  ・自己評価力を高める手だて                  視点C 児童の学習意欲を高め、学びを支える環境作り                  ・学習や生活に関する意識調査                  ・基礎・基本の定着を図る場の工夫</p>
--------	--

平成16年度	<p>○ <b>テーマ</b> 自ら学び、自ら考え、生きる力を育てる指導法の研究 ～個に応じたきめ細やかな指導と評価の工夫改善～ (国語と算数の授業実践を通して)</p> <p>○ <b>研究の見通し</b>(仮説)</p> <p>仮説1: 基礎基本の確実な定着を図るために指導体制や指導方法を工夫していけば、児童の実態に応じた多様な指導ができ、児童に確かな学力をつけることができるだろう。</p> <p>仮説2: 1時間の評価基準を明らかにして指導に生かしたり、児童の自己評価力を高めたりすることができれば、児童に確かな学力をつけることができるだろう。</p> <p>仮説3: 学んだ学習を定着させたり、生かしたりするための学びを支える環境を工夫するならば、学習意欲を高め、児童に確かな学力をつけることができるだろう。</p> <p>○ <b>研究の内容・方法</b></p> <p>(1) 研究の視点</p> <p>視点A 個に応じた指導体制・指導方法の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導体制、指導方法のあり方</li> <li>・効果的なT・Tや少人数での授業実践</li> <li>・習熟の状況に応じた授業展開 (補充・発展別の授業展開、教材の開発)</li> </ul> <p>視点B 指導に生きる評価の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価基準の明確化</li> <li>・学習意欲を高める学習カードの活用</li> <li>・自己評価力を高める手だて</li> </ul> <p>視点C 児童の学習意欲を高め、学びを支える環境作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習や生活に関する意識調査</li> <li>・基礎・基本の定着を図る場の工夫</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>平成15年度の反省に立って検討を加える</b></p>
--------	---

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

<p><b>視点Aについて</b></p> <p>ア 指導過程の中に、T・Tまたは少人数体制で取り組む時間を設定したので、個に応じた手だてを取ることができ、児童の基礎・基本の定着につながった。</p> <p>イ コース別学習では、興味関心あるいは習熟度による学習を設定して、「なぜ自分がそのコースを選んだのか」「そのコースでどんな力をつけたいのか」を児童に考えさせて選ばせるようにしたので、一人一人の児童が自ら学ぼうという意欲につながった。</p> <p><b>視点Bについて</b></p> <p>ア 学年に応じた学習カードを作成し、児童が毎時間のふりかえりをする時間を確保した。過去のカドを学習の中で生かしたことは、児童の意欲の向上と自己評価力を育てることにつながってきている。</p> <p><b>視点Cについて</b></p> <p>ア 掲示コーナーの設置やこつこつタイムの実施など環境面での工夫を行ったので、児童の学びを支える支援になった。</p> <p>イ 学習と生活のマニュアル「はじめの一步」を改善し、教師間の共通理解を図りながら活用したことが、児童の学ぶ姿勢や学び方など学習・生活のしつけ定着を図ることに役立っている。</p>
--

### 2. 今後の課題

<p><b>本年度研究の課題</b></p> <p><b>視点Aについて</b></p> <p>ア コース別学習を行う際は、どのような意図で、どのような内容のコースにするのかを決めるために、児童の実態調査のあり方を検討していかななくてはならない。</p> <p>イ 習熟度別学習では児童の力を伸ばすために、補充・発展学習場面の設定や教材の開発をしてもっと個に応じた指導につながるようにしたい。</p> <p>ウ T・Tやコース別学習はどちらも個に応じた指導として大変効果的ではあるが、そのためには担当者間の打ち合わせが重要であり、効率的な時間の確保を行いたい。</p> <p><b>視点Bについて</b></p> <p>ア 1時間1項目の重点評価を考えて日常評価を行おうとしたが、すべての授業で全児童を把握し記録することは大変難しい。残すべき必要のある観点だけを選んで記録する場面を明らかにする必要がある。</p> <p>イ 学習カードは学年に応じたものを作り、児童に学習を振り返る習慣をつけ意欲の向上を図った。児童に提示する自己評価の際の基準をもっとはっきりさせて自己評価力の向上につなげたい。そのためには1時間1時間の評価基準をもっと明確にして授業に臨まなければならない。</p> <p>ウ 学習カードは学年に応じて工夫しているが、書き込む時間に個人差があるので、時間の確保と、より簡潔に記入できるカードの作成も考えたい。</p> <p><b>視点Cについて</b></p> <p>ア 学びを支える環境づくりとして各学習コーナーを設定してきたが、もっと児童が体験できる動的なコーナーや触ったり使ったりして試してみようと思わせるような工夫を考えていきたい。</p> <p>イ こつこつタイムでは、補充指導中心になっているので発展学習が可能な児童への対応を考慮した指導方法や教材開発を行っていきたい。</p> <p><b>来年度への課題</b></p> <p>来年度は、本年度の研究より見えてきた課題をもとに以下の研究により力をいれていきたい</p> <p>国語科・算数科における単元指導計画立案と補充・発展教材の開発 より効果的で多様なパターンのコース分け、少人数指導の研究 評価基準の明確化と評価情報の蓄積の仕方、総括評価のあり方の研究 学んだことを生かすための方策</p>
---

## 学力等把握のための学校としての取組

熊本県ゆうチャレンジテスト（12月）3年～6年（国語、算数、理科、社会）  
それぞれの教科で学習した基礎基本の定着度を図る問題に取り組み  
観点ごとに評価する

学力テスト（2月）1年間を通して児童の学習状況を把握するために行う。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* 学力向上フロンティア事業球磨地区協議会での実践発表  
日時 平成16年1月19日（月）  
場所 球磨総合庁舎大会議室  
対象 学力向上フロンティア事業球磨地区協議会委員  
人吉球磨学力充実対策会議研究員  
目的 フロンティアスクールの実践研究の成果の普及と管内の教育の  
充実・振興のため
- \* 公開授業研究会開催  
日時 平成16年1月23日（金）  
場所 人吉市立人吉東小学校  
対象 人吉球磨管内小中学校  
県内学力向上フロンティアスクール  
目的 研究の実践紹介と授業研究を通して研究を深めるため
- \* 研究成果普及のためのHP作成  
（ホームページアドレス：<http://www.hitoyoshi.net/higashisyou/>）
- \* 研究紀要作成配布（研究の概要、各学年部の取り組み）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無